日本物理学会 立命館大学びわこ・くさつキャンパス Mar./24/02

^{24aWK-5} 中間エネルギーにおける入射核破砕片の 運動量分布と生成断面積

"Momentum Distribution and production cross section of projectile fragments at intermediate energies"

高知工科大学 百田 佐多生

共同研究者

放射線医学総合研究所

金澤 光隆,北川 敦志,須田 充

佐々木 誠, 平井 正明

高知工科大学

野尻 洋一, 齋原 光和子, 坂本 麻子

0. 重イオンビームの応用

重イオンビームとそれから生成される二次ビーム



NRS(放射線医学総合研究所) HMAC加速器で加速した¹²C(290 MeV/A)の 照射によるガン治療

¹²C 以外のビームの利用



- 1) 良質のビームが得られる。
 - $\vec{V}_F \thicksim \vec{V}_P$

Separation in flight

2)不安定核ビームの生成に適している。
 ビーム強度

 A.生成断面積
 B.ビームラインのアクセプタンス etc.

2.破砕片の運動量分布と生成断面積

1)破砕片の運動量分布



- 1) Velocity shift : ΔP Excitation energy & Binding energy
- 2) Momentum distribution :σ_P
 A. Fermi momentum of nucleons in nucleus ref. A.S. Goldhaber, Phys. Lett. 47B (1973) 306
 - B. Deflection by nuclear force (P_T)
- 3) Low momentum component : Multi-step processes

2)破砕片の生成断面積



入射エネルギーや標的核依存性は?

3.測定



による規格化

4.破砕片の同定と運動量分布



5.破砕片の生成断面積

1)今までに行った測定

 Primary beam
 : ¹²C, ¹⁴N, ¹⁶O, ⁴⁰Ar

 Target
 : ¹²C, ²⁷Al, ¹⁹⁷Au

 Energy
 : 290, 420 MeV/A

2)測定された破砕片の生成断面積 反応: ⁴⁰ Ar(290 MeV / A)+¹²C (1.0 mm)







7.EPAX2との比較 II



EPAX2は

安定核と中性子過剰核 Good 陽子過剰核 Over-estimation

¹²C,¹⁶Oの場合は?

8.生成断面積のエネルギー依存性 |

今回の結果 290 MeV/A : 40 Ar + 12 C (NIRS-HIMAC) 1) 90 MeV/A : 40 Ar + 9 Be (RIKEN-RIPS) 5. Momota et al., to be published in Nucl. Phys. A 2) 1000 MeV/A : 40 Ar + 9 Be (GSI-FRS) A. Ozawa et al., Nucl. Phys. A672 (2000) 411



 $A({}^{40}Ar){}^{1/3} + A({}^{9}Be){}^{1/3} = 5.50$ $A({}^{40}Ar){}^{1/3} + A({}^{12}C){}^{1/3} = 5.71$

9.生成断面積のエネルギー依存性 ||



Obs./EPAX2

10.生成断面積の標的核依存性

1) ${}^{40}\text{Ar} + {}^{12}\text{C}$, 290 MeV/A, 1 2) ${}^{40}\text{Ar} + {}^{27}\text{Al}$, 290 MeV/A, 1.2 3) ${}^{40}\text{Ar} + {}^{197}\text{Au}$, 290 MeV/A, 2.1



11.まとめ

1)放射線医学総合研究所HIMAC加速器と二次 ビームコースを利用して破砕片の運動量分布を測 定し、生成断面積を導出した。

2)入射ビームが⁴⁰Arのとき、EPAX2は安定核や中 性子過剰核は実測値とよく一致するが、陽子過剰 核で実測値より大きい値を与える。

3) 生成断面積の系統性の導出

A.入射エネルギー依存性

B. 標的依存性

運動量分布の解析や角度分布の測定

破砕片生成メカニズムの解明

重イオンビームが関与する現象の予言とコント ロール

生成断面積のエネルギー依存性

